

めぐみイエス・キリスト教会

2025年7月13日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第766号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌137「聖なる聖なる」 p. 193

【交読文】 No.56 ローマ人への手紙12章 p. 924

【賛美Ⅱ】 新聖歌503「愛の御神よ」 p. 805

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神の都へ」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章49節～50節 (p. 133上段)

【礼拝説教】 《信仰と寛容とは？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章49節～50節)

9:49 さて、ヨハネが言った。「先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」

9:50 しかし、イエスは彼に言われた。「やめさせてはいけません。あなたがたに反対しない人は、あなたがたの味方です。」

●ポイント1. マルコの福音書における平行記事から

※マルコの福音書9章38節～40節「カペナウム郊外にて」(新約p.86)

9:38 ヨハネがイエスに言った。「先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」

9:39 しかし、イエスは言われた。「やめさせてはいけません。私の名を唱えて力あるわざを行ない、そのすぐ後に、私を悪く言える人はいません。

9:40 私たちに反対しない人は、私たちの味方です。」

●ポイント2. 使徒の働きに書かれた別件の記事から

※使徒の働き19章13節～16節「コリントにおいて」 (新約p.274)

19:13 ところが、ユダヤ人の巡回祈祷師のうちの何人かが、悪霊につかれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。

19:14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。

19:15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」

19:16 そして、悪霊につかれている人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。

●ポイント3. 主イエス様の新しい命令とは

※ヨハネの福音書13章34節～35節「最後の晚餐にて」 (新約p.213)

13:34「私はあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

13:35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

◎先週のメッセージ【一人の子ども】

《主イエス一行は、カペナウムのシモン・ペテロの家に戻って来ました。そのさいに、弟子たちは「誰が一番偉いのか」と論じ合っていたのです。主は尋ねられます。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」

彼らは答えることが出来ませんでした。そこで、主イエスは、一人の子どもの手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱きました。この子どもは、シモン・ペテロの子どもであると思われます。

そして、主イエスは弟子たちに、「誰でも、このような子どもを、私の名のゆえに受け入れる人は、私を受け入れるのです。あなたがた皆の中で一番小さい者が、一番偉いのです。」と、言われたのです。

当時のイスラエルでは、子どもたちは価値のないものという認識がありました。しかし、主イエスは、その風習と文化に対して、新しい認識を示されたのです。主イエスは、真に子どもたちを愛しており、大切な一人の魂であることを示されました。しかし、この教えを受けたにも関わらず、十二弟子たちの意識はすぐには変わりませんでした。それゆえ、主は、再び、弟子たちに教える事になるのです。ある時、主イエスに触れていただこうと母親たちが子どもたちを連れて来た事がありました。ところが十二弟子たちは、彼らを叱ったのです。

「子どもたちを、私の所に来させなさい。神の国はこのような者たちのものなのです。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」と、主イエスは言われて、子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福されました。

ここから、主がどれほど「子どもたち」を愛していることが分かります。そして最後に、この「一人の子ども」こそ、私たち一人一人なのです。私たちは、父なる神様の子どもです。そして、主イエスに取っても、大切な愛する子どもなのです。私たちの国籍は天にあります。》

◎お知らせ

※先週は、牧師が体調不良で、急遽礼拝をお休みし、ご迷惑をおかけしました。次回は、2025年7月27日午前10時より行ないます。

